

○新事務局より

事務局をお引受けしたものの、不馴れたため、通信の発行が大分遅れ、第六回大会の印象がうすれかける頃になつてしまつたことをおわびしたい。

村研も六年目である現在、中だるみという噂もあつたが、今年の過日の大会で会員すべて、大いに気をとりなおしたことと思う。これを機会に、また、新しい活動の段階に入りたいものだと思う。大分、会員も増加したことだし、ここいらで、各支部の結成と、月例研究会の開催なども、試みられていい頃ではないだろうか。会員がそれぞれいだいでいる抱負について、通信に大いに寄せていただきたい。

最近、村研の存在をひろく紹介する機会が二つあつた。その一つは、十月下旬の読書新聞の「研究集団」の欄に村研がのつたことである。その二つは、土地制度史学会（十月二十五・二六日）の懇親会において、小池先生が大いに喧伝して下さつたことである。

そういうえば、土地制度史学会は十周年を迎えて、年四回の「土地制度史学」の発行をみた。村研も、近い将来に、との「研究通」から学会誌への発展を期したものである。そのためにも、研究通信には、蓄つて原稿をおよせいただきたいと思う。三一号は三月中の発行を心掛けています。